

## 加藤周一さんの「お別れの会」に寄せて

国際的な知識人として、その国際化は歐米で知られ、昨年12月に亡くなった評論家、加藤周一さんのお別れの会が21日に行われる。その準備にかかる中で、加藤さんのあまり知られていない思い出が浮かんできた。

88年、加藤さんが立

て目で見据え、「アジア

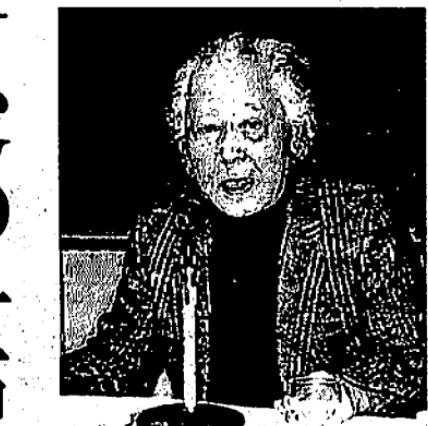
の地域の人たちの生活や文化・思想を日本に紹介する雑誌を世に問いたい」

す。その国際化は欧米がスタートした。先進国の主導で進めら

ていますが、それ以外の地域の人たちの生活や文化・思想を日本には、被支配者の内側へ

といたい」

といたい」



『グリオ』の創刊シンポジウムで語る加藤周一さん=91年、京都で、筆者提供

## 「9・11」後の世界を予言



岡 幸彦  
片

加藤さんの「お別れの会」は21日午後1時から東京・有楽町朝日ホールで。

II GN21/Gローバルネットワーク21/代表(元「グリオ」編集長)

命館大学国際関係学部客員教授に赴任されてから、世界はどう見えるか。これは非常に重要な問題だね。協力しましょう。こうして91年あまり過ぎたころ、私は研究室を訪ね、次のように切り出した。

「いまや政官民こそ第三地域から世界へ」って国際化の合唱で(平凡社、年2回発行)

テナンアメリカから見た側から見ることである。そしてアメリカから見て、日本から世界を見る場合、欧米大都市の魅力にも言及し

京都を大事にしまじょう。その後、京都の街を見れば被支配者であり、アジアから見れば支配者である日本は、この観点の移動に有利な状況にある

越えて世界を見るため酒屋の加藤周一(白沙このままアメリカ一極化がパレスチナ化し、新

高踏的ではなかった。じゃない。「9・11」同時多発テロ後のアフガン、イラクへと広がる混乱をまさに予言していた。これらの冒頭言をしたとき、私は皆さんの前だったけど厳然と抗議しました。西欧近代の贈り物として、こんな言葉も覚えていましたが、それ以外の地域の人たちの生活や文化・思想を日本には、被支配者の内側へ

のしかかっている。

葉は、NHKの特集で流れた「日本近代は、人間の非個性化、非人格化、非人間化ですね」だった。これらの冒頭

の

に語りあう場を持続けた。その内容は「居主義時代のそれとを峻別する必要がある。これとその後の西洋帝国主義時代のそれとを」に反対する「九条の会」に呼びかけるなど直言をされたようになつた。芸大130年」は休みました。

連載「都

おことわり

の美

京都